

鳥取大学・湖山キャンパスの風景(2022年7月)
一農学部フィールドサイエンスセンターに23年ぶりに開花した
リュウゼツラン

2022年8月吉日

記事・写真の提供：岸田 悟

湖山キャンパス 1965年 ————> 2013年 ————> 2022年7月



写真2
農学部フィールドセン
タへの途中

写真1
農学部棟・東側

前回のコラムで航空写真は貼付しましたが、昭和40(1965)年に設置されてから、今年2022年ですから、57年が経過しました。工学部の30年史の航空写真ではソフトボール大会をした運動場や学内に植林された木々はまばらでした。“リュウゼツラン”の探索を兼ねて久しぶりに学内を探索すると、何ということでしょう。

農学部棟の東側と図書館の間にある樹は一段と大きく成長し、季節柄、緑でおおわれ、暑い季節には癒される木陰です。また、工学部玄関前のお前の木々はより高く成長しています。57年の歴史は鳥取大学が山の中につくられたかのような緑一色です。

また、写真にはありませんが、農学部南側のポプラの樹は私が抱きかかえることができないほど、太く、農学部棟に沿って10本近く成長しています。一度、鳥取大学湖山キャンパスや鳥取県の風景を見に来られませんか。

農学部棟・東側

中央図書館





農学部フィールドサイエンス・センタへの道

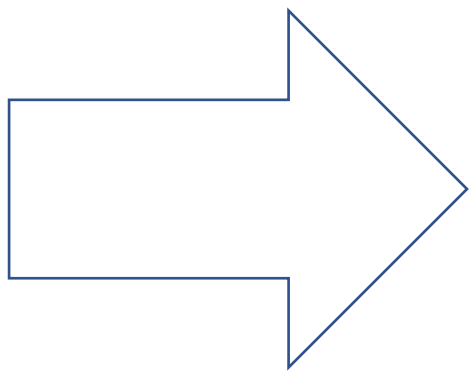


写真2_1
農学部フィールドセ
ンターへの道(学内)

写真2_2
農学部フィールドセ
ンター入口(学内)



写真2_2
リュウゼツラン(学内)





リュウゼツランに関する豆知識

【引用】 2022年(令和4年)7月2日 日本海新聞[地域総合](23)

- 茎急成長、**23年ぶり**開花—鳥大構内のリュウゼツラン 数十年に一度の晴れ姿—
- 鳥取大学(鳥取市湖山町4丁目101)・構内，農学部フィールドサイエンスセンターの一角で数十年に一度しか花を咲かせないと言われるリュウゼツランが開花。**2021年12月頃**から茎を伸ばし始め，**6月24日の開花時**には何と8mほどの高さに。
- リュウゼツランはメキシコなど中南米原産の多肉植物。鳥大のリュウゼツランは1970年から80年代までメキシコで乾燥地研究を行っており，「その関係で植えられた可能性がある」。K准教授は昨年(**2021年**)12月に葉の真ん中から伸びた茎を発見した。その後，茎はぐんぐん伸び4月には1.5m，2カ月で一気に8mまで伸び，24日に黄緑色の花を咲かせた。
- 鳥大のリュウゼツランは**1999年7月27日**に開花したが，翌日に台風により茎がおれ，枯れてしまった。